

## 岡山ブロック大会 レスキューローカルルール 2017

### 1 開催競技について

岡山ブロック大会では、ワールドリーグレスキューLine(世界選抜あり)と、ビギナーズクラス(ジャパンオープン出場未経験者チーム)を開催する。

### 2 チーム編成

- ・ Line (ライン)

2名以上6人以下

- ・ ビギナーズクラス

1名以上6名以下

でチームを組み、チームは複数台の参加(チーム人数内)も認めるが、参加するロボはすべて車検を受けて通ったものとする。

ただしジャパンオープン参加については1チームにつき1台のロボにすること。

### 3 ルールについて

- ・ Line (ライン)

2015 世界大会のレスキューラインセカンダリールール(避難ゾーン壁あり)

[http://www.robocupjunior.jp/rule/2016rule-aichi/RCJ\\_Rescue\\_Line\\_Rules2015\\_JP.pdf](http://www.robocupjunior.jp/rule/2016rule-aichi/RCJ_Rescue_Line_Rules2015_JP.pdf)

を基準に以下のようなローカルルールを設ける

- ・ ビギナーズクラス

2015 世界大会のレスキュープライマリールール(避難ゾーンの壁なし)

を基準に以下のようなローカルルールを設ける(

#### ■ 競技回数と競技順

競技は3回行われ、1回目走行と2回目走行の成績の良い方と3回目走行の合計点数が記録として採用される。コースは3回の競技で同じとは限らない。

競技の順番は当日くじ引きで決め、3回ともすべてその順番で進める。

#### ■ 被災者および避難ゾーン

被災者は直径5cm、重さ40gの光を反射する銀色のステンレス玉である

被災者は避難ゾーンにランダムに置かれる。(数は5個以内)

避難場所は走行前にあらかじめ指定する。(3回ともすべて同じとは限らない)

#### ■ コース・障害物

瓦礫はコンビニやスーパーで売っているような爪楊枝をランダムに撒く場合もある。それらは1本も固定しない。車体を通ると移動する場合、次の競技者の際には、再びランダムに撒き直す。

障害物については、およそ動かしてから10cm四方の石を置き、再スタートの場合、元の位置に戻してから再スタートする。

ドロップタイルはあらかじめ数か所決めて置いてある。

(戸口を通過したところや 避難ゾーンに入ったところなど)

**■ 競技中**

タイムスケジュールに従い各チーム 8 分の競技時間が与えられ、競技開始時間になると時間の計測を始める。この間ロボの調整・コース完走をしなければならないが、この際パソコンは競技エリアに持ち込んでも構わない。ただしバッテリー駆動とする。

調整とはセンサの値に合わせてプログラムの修正を行うもので、コースや被災者の情報をロボに入力することではない。

準備完了を審判に伝えて走行を開始すると、その後に調整することは許可しない。

競技進行の停止時に電源スイッチ等を操作することは認めるが、ロボットに状況を伝えるようなスイッチ操作をしてはならない。(特に N X T や EV3 の実行プログラムの変更など)

**■ 得点の決め方**

別紙得点表を参考

**■ 順位の決め方**

- ① 得点が高い方が優位
- ② 救出までに時間が短い方が優位
- ③ 棄権したチーム同士で同点の場合は競技時間が短い方を上位とします。

**■ 車検・プレゼン用紙提出について**

車検を受ける際に構造・仕組みとプログラムについて車検シートに記入しておき、チェックを受けること。

各チーム A3 横サイズのポスター (プレゼンシート) 1 枚を提出すること。

競技会の途中でロボに変更を加えた場合、必ず再車検を受けること。

**■ 競技時間・終了宣言について**

主審や副審は、競技の終了を競技者に勧めることはしない。

競技者自身の判断で競技の終了が宣言されるまで審判は待つ。ただし、競技の制限時間は 8 分なので、8 分が経過した場合は競技が終了する。

競技者が競技を途中で終了したい場合は、「競技を終了します」のように明白な意思を審判に伝えなければならない。

**■ その他**

練習用コースも設けるが、競技開始前後は本番コースでの練習走行を認める。

競技が開始されたら速やかに競技フィールドから退出すること。